

阪神大震災特集

地震と病院図書室

被災レポート

—大阪厚生年金病院の場合—

山口 佐保

はじめに

明け方の眠りを切り裂くように突然ドスンと衝撃が走った。あっというまもなくグラグラッと激しく横に揺れ、建物がミシッ、ミシッときしむ。1月17日午前5時46分、かつて経験したことのない恐怖の時間がゆっくりと経過した。幸い自宅の被害はほとんどなく、近辺の建物も一見被害はなさそうだ。ただ不気味な静寂が広がる。自宅から職場までは自転車でもわずか7分程度。地震直後のこの時点では、図書室があれ程までの惨憺たる有り様になっていようとは全く想像もできなかった。

被害状況

余震が頻発し、周辺の状態も全くわからない中、とりあえず様子を見るため病院に向かう。3階図書室の真っ暗な閲覧室ドアを開けた途端、あまりのすさまじさに言葉を失い、悪夢を見ている気分で、すぐにドアを閉めてその場に立ち尽くした。

被害状況

●閲覧室(写真1)

- (1) 3連書架倒壊
 - (2) 6連書架転倒
 - (3) 雑誌架転倒
 - (4) 閲覧机、椅子破損
- } 図書、雑誌の散乱

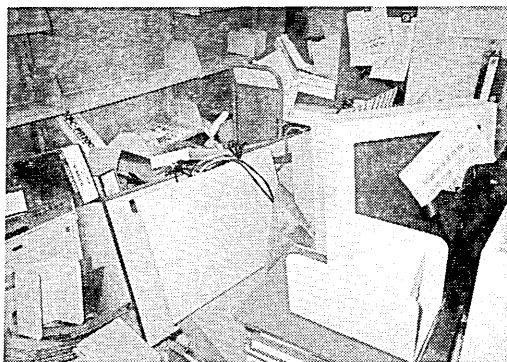


写真1: 散乱した室内の様子

- (5) 係業務用パソコンラック転倒、パソコン、プリンタなど機器の落下

●書庫室(写真2, 3)

- (6) スタックランナー(集密電動書庫)歪み、部品破損

*写真撮影: 庶務課村上氏



写真2: スタックランナー部品破損

やまぐち さほ: 大阪厚生年金病院図書室

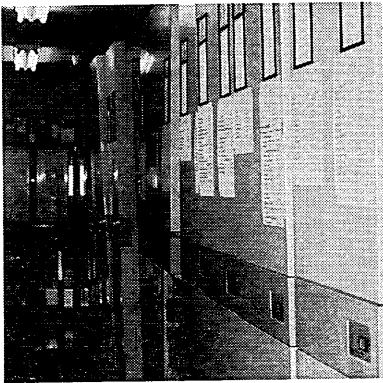


写真 3

スタックランナーの歪曲

転倒した書架の図書、雑誌はすべて棚から飛び出し、閲覧室の床一面が本の山になっている。足の踏み場もなく、中に入ることもできない。傾いた書架から落ち損ねた本がぶら下がり、薄暗い室内に不気味なシルエットを醸し出している。司書業務用のパソコンは6連書架の下敷きになり、ラックから滑り落ちるように脱落。書庫のスタックランナーは地震の激しさを物語るように、通路側にのしかかるように傾いている。書架と書架の隙間には本が落ちて通路を塞ぎ、溢れんばかりになっている。ちょうど6連書架を背にした位置が司書業務机のある場所だ。もし勤務中の地震であれば、確実に書架や本の下敷きになり、大けがをするか、最悪の場合には死亡も有り得る。思わず背筋が寒くなった。後日職員から、「もし勤務中だったら、山口さんが院内の死亡者第1号になっていたかも・・・」と冗談を言われるほどの激しい散乱状態だった。また図書室は夜間や早朝にも医師が利用することが多いが、この時は誰もおらず、負傷者が出なかったのがなによりのことである。

復旧作業

復旧、修理作業が一応終了したのは3月19日。およそ2カ月間、利用者は不自由な思いをしたが、修理業者が病院関係優先で対応してくれたため、学会シーズン前に終了でき、非常に助かった。

以下日を追って復旧状況を記録する。

1/17：地震発生当日。図書室は被害甚大で危険につき入室禁止。この日は多数の出勤不能者と建物等の損害により、院内業務が混乱して繁忙を極めた。

*余震による二次災害防止のため、1/17から1/26まで入室禁止となる。(図書室施錠) 図書室の通常業務もすべてストップした。

1/18：書架、スタックランナーの修理を依頼する。業者により状況確認。

1/19：6連書架転倒分を起こしてビス止め修理。・3連書架倒壊分を解体。

(業者)・散乱図書を隅に積み上げ整理。(女性援助者と2名で)

1/20：この日より毎日図書室内復旧作業(主に司書1名で)。司書業務用パソコンの正常動作を確認。

6連書架配架作業を開始し、約1週間継続した。

1/23：業者3名(東京本社からの応援1名を含む)で転倒雑誌書架を起こし、6連書架と共に再補強。転倒しなかった書架も念のため補強。

1/24-26:被害状況まとめ、復旧検討。

2/1：倒壊3連書架の買い替え分納品、ビス止め。(業者)

2/2：3連書架分図書の配架作業。

2/3-2/8：閲覧机、椅子など備品破損分修理。

2/14：文献複写依頼業務再開。

文献複写受付業務は2月いっぱいまで謝絶する。

以上がスタックランナー以外の復旧作業である。

雑誌架を含め書架合計10連分の散乱図書や雑誌は、転倒しなかった書架の前に仮置きせざるを得ず、しかも相当な場所を占有し、2月初めまで図書室は全然利用できなかった。

また、復旧作業に追われて図書室の通常業務ができないため、文献複写依頼もできず、利用者から度々問い合わせを受けた。

次にスタックランナーの修理は以下の通り。

- 1/20 : 業者作業員5名の応急処理で、散乱図書を棚に戻す。安全バー感知部分破損の半分は手で、半分は電動でとりあえず傾いたまま動く。
- 1/23 : 業者の状況視察、検討。
- 1/26 : 応急処理不十分のため全部手動でしか動かなくなる。窓がない部分は真っ暗で使用不可となる。
- 1/27 : 業者が安全バーを再度応急修理し、全部がとりあえず電動で動作する。蔵書3万冊程の別置場所を検討する。(修理の際、いったん全蔵書を搬出し、空棚にする必要があるため)搬出入については業者委託に決定。
- 2/9 : 搬出後の一時置場所決定。(看護学校体育館ロビー)
- 2/21 : 修理日程の打ち合わせ。
- 3/1 : リミッター1カ所破損。業者応急処置。
- 3/10-19 : 工事開始～
書庫室出入り全日禁止。
- 3/10-12 : 搬出。(土・日作業含む)
- 3/15-16 : 修理工事作業。
- 3/17-19 : 搬入、配架。(土・日作業含む)
- 3/20 : 司書チェック→業者に1カ所修正指示。
- 3/22 : 図書委員会で修理の終了報告。
- 3/28 : 検収。(業者、用度立ち会い)

以上実際の修理作業は3/10-3/19と10日間だった。図書の搬出入を専門業者に委託したため、配架ミスもなく、手際よく6日間で済んだ。これまでも大学図書館などの大規模な移転作業を数多く経験しているため、確実に効率よく進めてくれる。ただし、修理費全体のほぼ半分が人件費だった。また一部部品の在庫切れのため2日間のロスが出たが、修理作業員を増員し、当初予定より1週間も早く済み、非常に助かった。

今回の教訓及び今後の地震対策について

(1)ビス止め強化

書架は美観よりもまずビス止めが大切。転

倒した6連書架、3連書架とも以前からビス止めされていなかったようだ。6連書架の場合、従来から図書を少しきつところに押し込むだけでぐらぐらしていた。地震対策も考えてはいたが、まさか本当に来るとは思わず、補強していなかった。数年前に新たに設置した書架と、雑誌架は、ビス止めしていたので転倒しなかった。転倒さえしなければ棚の中の図書、雑誌もほとんど飛び出さずに数冊が落下するだけで済んだ。壁に面していない低書架などもすべて床にビス止めしてもらった。

(2)スタックランナー(集密式書架)の補強
当室では幸いにも脱輪していなかったが、横に強く揺れたため各支柱が斜めに傾いてしまった。修理時には新規に耐震用ブレースを背面に×状に取り付け、今後同規模の地震でも耐え得るように設計されている。今回被災しなかった図書室でもブレース補強はしておいた方がよいと思う。

(3)被害状況の全容の詳細な写真を撮影し、
状況記録と併せて整理しておく。

(今後の危機管理の教訓にする)

今回あまりの被害に呆然としてしまい、写真による状況記録を考えつかなかった。今回掲載した写真は地震後1日経って少し片付けた後のもので、枚数も少なく、本当の被害状況がつかめない。文書による記録は地震発生日の朝から取っていたが、被害直後の写真を残すことは、今後の教訓のためにも大変重要なことだ。

(4)パソコン機器類について

パソコンを置く机は、頑丈で転倒しにくいものか、キャスター付きのラックがいいだろう。当室では書庫室にパソコンが3台あるが、机をきっちりつめて動かないように置いてあったので、何も転倒・落下しなかった。地震以降、唯一転落した司書業務用パソコンはモニター、本体に布テープを貼りつけて固定している。また、キーボード、マウスは落ちたときのために毎日帰る前に、エアキャップで包んでいる。電源コードも必ず抜いて帰る。これは転倒した場合の本体と電源接続部が破

損しないようにするためである。従来から終業時には電源コードを抜く習慣であったため、今回も奇跡的に全て正常に動いた。そしてできれば常日頃からデータのバックアップを取っておくことが大切だ。

(5) 係机などの配置について

閲覧室の片隅にある業務機の配置を危なくないよう変え、横の棚にはあまり重いものを置かないなどの工夫をした。また本棚の上に重いものを積んだりするのは危険なので止めた方がよい。

(6) 今後の勤務中の地震発生時の対応

業務中の場合は、ドスンと揺れたらとにかく転倒書架や落下物を避けるため、一刻も早く図書室外に出ることである。また、避難経路確保のために足元や通路、扉の付近に障害となる物を置かないこと。

図書室閉鎖時の利用者の声

- (1) 日常診療上、および教育用の調査や確認ができない。
- (2) 研究会、学会準備のための資料集め、文献複写、準備作業ができず、そのために作業計画の変更などの支障が出た。
- (3) 文献複写依頼ができない。
- (4) 利用者用のパソコン類が書庫室の片隅にあり、修理工事期間中はスライド、論文作成などにパソコンを使用できない。

おわりに

全く予想もしなかったことが起こり、無我夢中で過ぎた2カ月だった。その間は実質司書1人だけの細々とした作業で身心ともに休まる間もなく、いったん椅子に座ると立ち上がれないほどの疲労感におそわれることもあった。利用者は院内や業者からの多数の応援を得てすぐに復旧できると思っていたらしく、遅々として進まない作業に苦情をぶつける利用者もあった。反対に「手伝いましょうか」という利用者の声には、力づけられ、励みになった。

この震災による機能停止が利用者に及ぼした影響を見て、図書室の役割の重要性を改めて強く実感した。そして日頃からの危機管理の実践が何にもまして大切であると感じた。今後はこの教訓を生かして、安全対策を講じていきたい。今回被災しなかった図書室にも、このレポートが少しでも参考になれば幸いだ。

最後に、一連の復旧作業にあたって、ご協力、お見舞い、励ましのお言葉をかけて下さった方々に厚くお礼を申し上げます。

* 修理業者

- ・書架ーキハラ（株）
- ・電動書庫（スタッランナー）ー日本ファイリング（株）
- ・書庫内図書の搬出入ー（株）日立物流